発行責任者：増田望三郎　安曇野市三郷小倉 4028-1 安曇野地球宿内　TEL/FAX 0263-55-7414　メール boetu@d6.dion.ne.jp

安曇野レインボウ通信

Season 3
2023年 新春号 第35号

増田望三郎（ぼうざぶろう）の市議活動だより

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹（= Rainbow レインボウ）の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ 。

BOUZABURO

●プロフィール
大分県出身 53 歳。東京経由で安曇野に移住し 19 年目に。三郷小倉に妻と子ども、妻の両親の 3 世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議 3 期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

旧統一教会との関係性と信濃毎日新聞記事について

昨年 12 月 23 日付信濃毎日新聞にて、安曇野市議会議員と旧統一教会との接点についての記事が掲載されました。安曇野市議会では当団体との関係について全議員を対象に調査を行い、紙面では私は「接点」があったと掲載されていますが、私と当団体とは一切関係が無いことを以下説明いたします。

私が小林純子議員らと定例会毎に開催している議員の活動報告会に市内在住の旧統一教会の方が参加されたことが 1 度だけありました。この報告会は市民のみなさんと市政を近づけたいという思いから、興味関心ある方はどなたでも参加 OK です。その時もこの方の参加をお断りしませんでした。尚、その方が旧統一教会関係者と知ったのは、頂いた名刺にあった団体名を後日ネットで調べた時です。すなわち、報告会ではその方が旧統一教会の方という認識はありませんでした。

また私は議員活動で知り合った人に対して区別なく、望三郎後援会から後援会便りを送ってもらっています。これは望三郎の議員活動を幅広く知ってもらうという後援会活動によるもので、この方にも何回か発送しています。その後、旧統一教会の反社会的行動が報道されることにより、私もこの団体の実態を知ることになります。後援会には便りを送らないように対応をお願いしました。以上、これ以外の接点は一切ありません。

私は市民と市政との懸け橋になりたいという思いで、積極的に対話の場を作っています。その姿勢は今後も一切変わりません。２０２３年も望三郎の議員活動をご注目ください。

安曇野の学校も夢みる学校に！

昨年 12 月に市民有志のみなさんと映画「夢みる小学校」上映会を行いました。この映画は子ども一人一人の個性を大切にした学校づくりをしている 3 つの小中学校を紹介したドキュメンタリー映画です。その中で紹介されている伊那市立伊那小学校公には実行委員会で視察にも行き、その取り組みに、公立校でもここまでやれるんだ！と驚きました。

コロナ禍により学校の現状は不登校児童の増加、自殺者数の高止まり、摂食障害などの数も増えており、子どもたちの心が悲鳴を上げています。それを何とかしたい。私たちの子どもが通う学校、私たちが暮らす地域の学校を子どもたちがワクワクして行きたくなる学校にしたい。そんな願いで行った上映会には 350 人もの参加がありました。また映画上映だけで終わらせてはならないと、上映後に「安曇野の学校のこれからを考えよう」というテーマでトークライブを企画し、安曇野市内の校長、先生、保護者、高校生が登壇し、これからの学校のあり方を考えました。

年末に行われた市長、教育長が出席した安曇野市の総合教育会議でも、「安曇野市立こども園・幼稚園・小学校・中学校の特色と魅力を高める安曇野市教育のあり方について」というテーマで議論がされました。安曇野市の学校が子どもたちにとってワクワクする「夢みる小学校」にアップデートできるように、これからも議論を起こし、活動の輪を広げていきたいと思います。

新展開！みんなでカフェトーク

これまでの報告会スタイルをやめて、カフェでおしゃべりするようなカジュアルな場をつくります。私も背広とネクタイを外し、市民のみなさんとざっくばらんにお話しします。敷き布を用意しますので、お子さん連れでどうぞ。

参加予定議員）小林純子、橋本裕二、増井裕壽、増田望三郎

日時：1 月 29 日（日）pm 2 時～4 時

場所：穂高研成ホール

サポーターからの応援メッセージ 34

松村和楽さん（三郷、高校生・18 歳）

望さんには生まれたときからお世話になってきました。市政に本気で関わる望さんが近所にいてくれたおかげで、「安曇野というまちに生まれ、生きているんだ」という感覚の中で育つことができたと思います。

議員さんとしての活動を熟知できてはいませんが、とあるきっかけで望さんの物事に対する取り組み方を間近で見ることができました。それは 2022 年末に行われた「夢みる小学校」という映画の安曇野自主上映会＆トークライブです。「安曇野の教育について考える機会を作ろう」ということで私も運営メンバーとして参加し、望さんの活動する姿も間近でみさせてもらいました。最終的には約 350 人もの方にお越しいただき素敵な場となりましたが、終わった今、「誰かが声を上げなければ始まることのない何か」を望さんは始め続けていたのだと感じています。そこに賛同する「人」と「思い」とが集まり仲間を構成し、市の一部となっていくことは、目の前のすべてに本気で向き合う望さんだからできることです。

安曇野は、大人になると外に出る若者も少なくないですが、望さんなら「ここで育ってよかった」と思う子どもを 1 人でも多く育てるようなまちにしてくれるでしょう。私もそんな 1 人として生きていきたいです。

１２月定例会の一般質問

テーマ「太陽光発電推進の落とし穴を塞(ふさ)ぐ」

【解説】2050年に温室効果ガスの排出量と吸収量の収支をゼロにするカーボンニュートラル（＝ＣＮ）の取組が進んでいます。中でも太陽光発電施設の普及促進は不可欠ですが、一方で自然景観や生活環境を損なう可能性があること、また不正な事業者が地域を侵食する事例も見られ、推進の影には落とし穴があり、未然に塞ぐ必要があります。推進と規制それぞれの考え方と方策を明確にした新たな枠組みを構築する必要があることを訴えました。市長は新たな条例制定を行う旨を答弁しました。

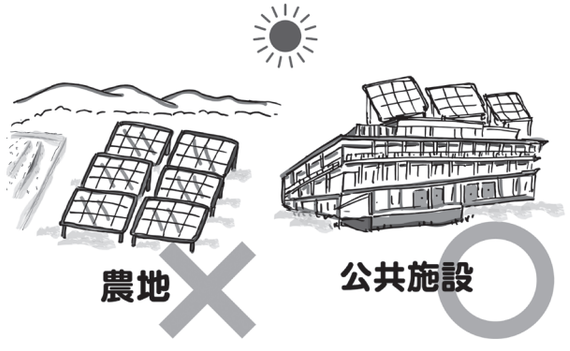
望市議　太陽光発電の促進、あるいは規制は既存の土地利用条例で対応できているのか。

市長　太陽光発電など代替エネルギーの促進は基本的な考えだが、特に問題視するのは野立て。現ルール上、農地の一時転用のみで可能であり、住民説明会、周辺住民の合意も必要ない。新たな条例制定によるルールが必要。

望市議　ＣＮに向けては太陽光発電もしっかりと進めることも必要。どう推進するのか。

部長　ＰＰＡ事業の展開により、屋根置きの設備設置を促進する。

ＰＰＡ…自治体が保有する施設の屋根を民間事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を自治体が有償で使う仕組み。



テーマ「明科の未来は安曇野の未来 前のめりのチャレンジを」

【解説】明科地域は昨年４月に過疎法に基づく一部過疎地域の指定を受け、財政支援を受けるられる過疎対策事業を過疎地域持続的発展計画（＝計画）にまとめました。今回の明科地域の計画と実行は、やがて安曇野の他地域にも起こり得る過疎の状況をどう取り組み課題解決していくか、その試金石になると考えます。明科の未来は明科地域だけのことではなく、安曇野の未来とも言えるのです。計画には様々な事業が網羅されていますが、現状の打開にはいくつか尖った事業も進めていくこと、そして市民力と民間事業者の力を最大に発揮させる必要があります。行政にはもう一歩前のめりの姿勢を求めたいです。

望市議　明科の様々な拠点が単体で存在するのではなく、有機的につながり相乗効果を上げるためには、潤滑油的な役割が必要。地域おこし協力隊の配置を提案するが。

部長　大変有益な提案。検討を進める。

望市議　安曇野市はこれまでも移住者に選ばれ、中でも子育て世代には豊かな自然環境の中で子育てをしたいニーズがある。本市は自然保育に力を入れているが、明科北認定こども園はＮＰＯ法人くじら雲を委託業者とし、やまほいくの普及型に加え、特化型も行っている。これは市のチャレンジでもあり、明科地域の強みの１つだ。市の委託業者になってからは、公立園の１つという位置づけ、平等性のためか、市のページを見ても様々な情報の中に埋もれている感がある。くじら雲ブランドを生かし切れているか。

部長　明科北園は公設民営化の園として、今年度からくじら雲に保育業務を委託した。今年度は園庭に木を植えて木陰を増やし、たき火スペースを設けることで火を囲むなど、自然体験活動ができるよう園庭改修工事を行った。明科北園の自然保育の様子を前のめりに最大限生かし発信していく。

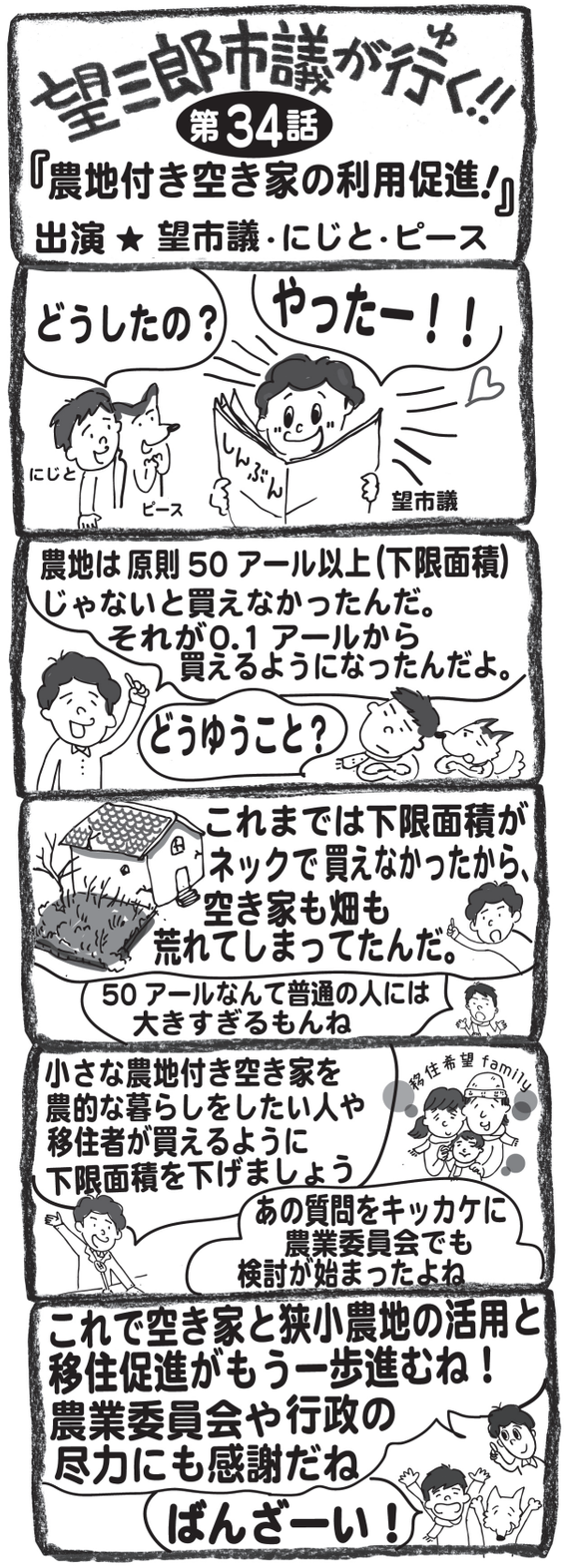
▲木々が植えられワクワクした遊び場に変わる明科北認定こども園の園庭

望市議　明科北こども園と明北小を、自然保育で培った育ちを更に伸ばす総合学習に重点を置き、幼小接続に継続性・一貫性を持たせてはどうか。

教育長　明科北園での学びを明北小につなげることは極めて大切。こども園、小・中学校の連携で、ここでしか学べない、ここだからこそ学べる、そういった特色の魅力ある学校づくりに努めたい。

黙食の見直しを求める陳情に賛成討論

市民提出の「学校における『黙食』の緩和を求める陳情」に賛成討論しました。学校給食の際、適切な対策を取れば「会話は可能」とする文科省通知を受け、市教委も学校運営ガイドラインを「食事中は飛沫を飛ばさないよう対面を避けるなど、座席配置を工夫するとともに、適切な換気の確保等の措置を行い、大声での会話を控える」と変更しています。この数年における長期欠席・不登校児童数の急増、児童の自殺者数の高止まり、摂食障害児童の増加など、明らかにコロナ生活下における影響があります。子どもたちの心は限界、悲鳴を上げています。仲間たちとの学校給食の食卓が、お互いの笑顔を見せあうことができるようにしてあげたい。そう大人として願い、発言していきます。



マンガ・イラスト／にじ工房 西絢子